

プロバイダーとバックボーン 第2章

IX

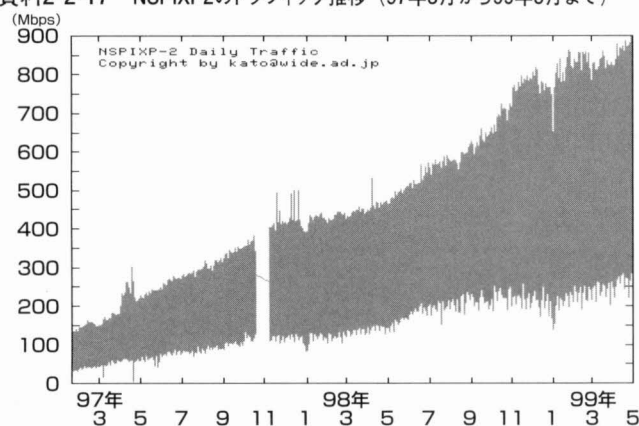
トラフィックは増加の一途

資料2-2-16 IX一覧

NSPIXP	参考URL
NSPIXP2 (東京地区)	http://xroads.sfc.wide.ad.jp/NSPIXP/
NSPIXP3 (関西地区)	http://xroads.sfc.wide.ad.jp/NSPIXP/
商用IX	
日本インターネットエクスチェンジ株式会社 (JPIX)	http://www.jpix.co.jp/
メディアエクスチェンジ株式会社 (MEX)	http://www.mex.ad.jp/
地域IX (商用含む)	
東北地域内インターネット相互接続研究会 (TRIX)	http://www.tia.ad.jp/trix/
山梨地域情報ネットワーク相互接続機構 (Y-NIX)	http://www.y-nix.or.jp/
東海地域ハブ研究会 (TKIX)	http://www.tkix.net/
関西ix協議会 (JIX)	http://www.jix.or.jp/
なにわインターチェンジ	http://www.jtn-net.ad.jp/naniwa/
岡山県高度情報化実験推進協議会 (OKIX)	http://www.okix.ad.jp/
沖縄インターネットエクスチェンジ (OIX)	http://www.oix.u-ryukyu.ac.jp/

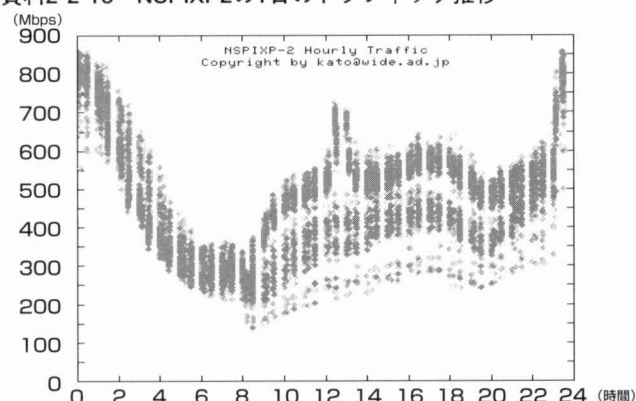
出所 各資料を元に編集部で作成

資料2-2-17 NSPIXP2のトラフィック推移 (97年3月から99年5月まで)



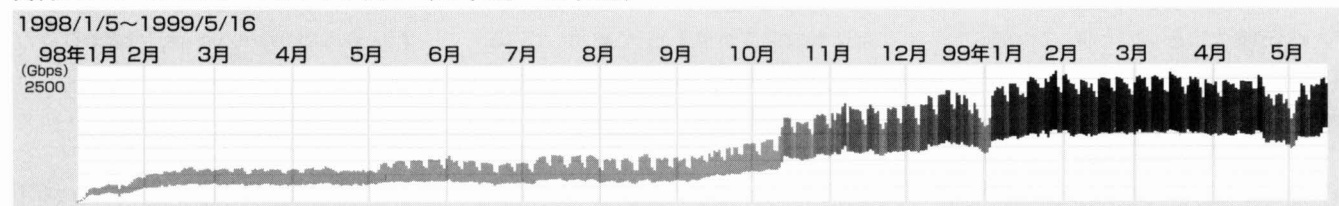
出所 WIDEプロジェクトの資料を元に作成

資料2-2-18 NSPIXP2の1日のトラフィック推移



出所 WIDEプロジェクトの資料を元に作成

資料2-2-19 JPIXのトータルトラフィック (98年1月～99年5月)



出所 JPIXの資料を元に作成

解説

複数のネットワークが1つのポイントで相互に接続される場所のことをインターネットエクスチェンジ (IX: Internet eXchange) と呼ぶ。国内には研究機関が運用するIX、地方自治体などを中心に運用されている地域IX、そしてビジネスとして運用されている商用IXがある (資料2-2-16)。

IXを用いた相互接続方法は、プロバイダーごとにリンクを設置して運用するのではなく、1本のリンクを使って複数のプロバイダーとの相互接続ができるといった経済効果がある。また、単なる経済効果だけではなく、一種サロンのような役目も果たしている。あるIXに参加する

ことにより、他の多くのプロバイダーの運用者と知り合いになれるだけではなく、具体的なトラフィックの交換をすることにより、技術情報を交換したり、互いに信頼関係を築くことができる。特に地域IXの場合、このサロンの効果をその運用目的にしているものも少なくない。

最近では、UUNETなど国際的なプロバイダーが、日本への足がかりとしてNSPIXPや商用IXに接続しはじめている。

NSPIXPやJPIXのトラフィック量 (資料2-2-17～19) からわかるように、日本のインターネットが広がるにつれて、IXで交換されるデータ量も増加の一途をたどっている。NSPIXP2な

どでは、すでにFDDI技術の次のデータリンク技術であるGigabit Ethernetを使ったIXの実証実験を開始している。しかし、多くのプロバイダーは、IXを公共的な相互接続地点として位置付け、特に関係の深いプロバイダー間ではプライベートにリンクを設置し、このリンクを使ってトラフィックの交換を行なっている。このような相互接続のことをプライベートピアと呼ぶ。

(中村 修 慶應義塾大学環境情報学部/WIDEプロジェクト)



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp